

## I. 2015年度事業報告 (2015年3月1日から2016年2月29日まで)

### 1 庶務報告

#### (1) 総会

第59回（2015年度）定時総会を2015年5月8日、東京大学中島董一郎記念ホール（東京都文京区弥生1-1-1）において開催し、次の議案を可決した。

第1号議案 理事及び監事の選任の件

第2号議案 計算書類等の承認の件

#### (2) 理事会、委員会の開催

2015年度（2015年3月1日から2016年2月29日）は下記のとおり開催した。

理事会（7回）4月21日、5月8日（2回）、7月2日、10月1日、12月3日、2月3日

業務担当理事連絡会（5回）4月21日、6月25日、9月25日、11月27日、1月27日

授賞選考委員会（2回）11月5日、12月12日

学術活動強化委員会（2回）3月28日、9月26日～27日

学術活動強化委員会総務会（2回）11月4日、2月6日

和文誌編集委員会（3回）3月29日、5月9日、11月7日

和文誌運営委員会（2回）5月9日、11月7日

英文誌編集委員会（1回）3月27日

英文誌編集総務会（2回）8月24日、1月28日

産学官学術交流委員会（3回）3月28日、9月24日、12月15日

広報委員会（2回）3月29日、11月6日

財務委員会（6回）4月21日、6月25日、9月25日、11月27日、12月18日、1月27日

JABEE対応委員会（1回）3月29日

男女共同参画委員会（1回）3月28日

岡山大会実行委員会（2回）3月2日、5月27日

札幌大会実行委員会（4回）3月12日、4月2日、6月10日、11月17日

#### (3) 会員の状況

2015年度（2016年2月29日現在）の会員数は次のとおりである。

	2015年度	2014年度	増減
名誉会員	16	17	-1
有功会員	199	203	-4
シニア会員	345	287	58
一般会員	6,773	6,864	-91
教育会員	49	28	21
学生会員	2,717	2,691	26
国外会員	55	61	-6
団体会員	274	280	-6
賛助会員	102	109	-7
（口数）	(215)	(222)	(-7)
合計	10,530	10,540	-10

### 1) 有功会員

2015年10月開催の第339回理事会の議決により次の9名の会員が有功会員として承認された。

石崎文彬氏、江尻慎一郎氏、味園春雄氏、吉田茂男氏、高木恵一氏、今中忠行氏、今泉勝己氏、西澤直子氏、祥雲弘文氏（生年月日順）

### 2) フェロー

2015年10月開催の第339回理事会の議決により次の6名の会員がフェローとして承認された。

上村一雄氏、土屋英子氏、西田律夫氏、早川 茂氏、伏木 亨氏、森 信寛氏（五十音順）

### （4）研究業績の表彰、奨励

2015年度は日本農芸化学会賞2件、日本農芸化学会功績賞1件、農芸化学技術賞4件、農芸化学奨励賞10件の授賞式を行った。

また、授賞選考委員会の選考を経て本会から各財団等に対して推薦した候補者のうち、下記の様に受賞、採択された。

（公財）農学会・第14回日本農学進歩賞：1件

日本農学会・平成28年度日本農学賞：1件

（日本農学賞授与式、読売農学賞授与式、受賞祝賀会：2015年4月5日 東京大学山上会館）

### （5）研究発表会、シンポジウム、講演会等の開催

#### 1) 2015年度全国大会

2015年度全国大会は2015年3月26日から29日までの4日間、ホテルグランヴィア岡山、岡山大学津島キャンパス（岡山県岡山市）を会場として開催した。大会第1日目（3月26日）はホテルグランヴィア岡山において、学会賞等授賞式、第12回農芸化学研究企画賞表彰式、BBB関係表彰、相談役会、学会賞等受賞者講演および大会懇親会が盛大に行われた。大会第2日目～第4日目（3月27日～29日）は岡山大学において、口頭発表による一般講演（2,055題）、シンポジウム（23テーマ・141題）の発表と討論、ランチョンセミナー（18社・18題）、ミキサー、展示会（116社・160小間）が開催された。また、高校生による「ジュニア農芸化学会」のポスター発表（50題・50校）が開催され、大変盛況であった。大会期間中は託児ルームが開設された。大会参加者数は4,672名であった。

#### 2) 第41回農芸化学「化学と生物」シンポジウム

第41回農芸化学「化学と生物」シンポジウム「生き物の仕組みを化学する楽しさ」は、2015年3月26日に、ホテルグランヴィア岡山において開催され、約600名の参加者があった。

#### 3) 第22回農芸化学Frontiers シンポジウム

第22回農芸化学Frontiers シンポジウムは、2015年3月29日～30日にゆのう美春閣（岡山県美作市）にて、講

演会・シンポジウムが開催され、92名の参加者があった。また、エクスカーションとして真庭バイオマスタウンを見学した。

**(6) 国際会議、国際シンポジウムの共催・協賛・後援**  
**【2015年】(6件)**

- ・第12回国際メイラード反応シンポジウム（東大）《後援》（9月1日～4日）
- ・JASIS2015（幕張）《後援》（9月2日～4日）
- ・第32回有機合成化学セミナー（湯河原）《共催》（9月15日～17日）
- ・プロテイン・アイランド・松山 国際シンポジウム 2015（松山）《後援》（9月24日～25日）
- ・第43回構造活性相関シンポジウム・第10回薬物の分子設計と開発に関する日中合同シンポジウム（新潟）《後援》（9月27日～29日）
- ・第20回静岡健康・長寿学術フォーラム（静岡）《後援》（10月30日～31日）

**【2016年】(11件)**

- ・第21回名古屋メダルセミナー（名古屋大）《協賛》（1月22日）
- ・RDA総会・データシェアリングシンポジウム（東京）《後援》（2月29日～3月3日）
- ・26th IUPAC International Symposium on Photochemistry（大阪）《後援》（4月3日～8日）
- ・国際学術会議「Molecular Chirality Asia 2016」（大阪）《共催》（4月20日～22日）
- ・13th International Conference on Ceramic Processing Science (ICCPs-13) (奈良)《協賛》(5月8日～11日)
- ・第13回セレン・テルル化学国際会議（岐阜）《協賛》（5月23日～27日）
- ・第17回嗅覚・味覚国際シンポジウム「17th International Symposium on Olfaction and Taste (ISOT2016)」（横浜）《後援》（6月5日～9日）
- ・Rare Earths 2016 in Sapporo, JAPAN（北大）《協賛》（6月5日～10日）
- ・第27回生体系磁気共鳴国際会議（京都）《後援》（8月21日～26日）
- ・International Symposium on Natural Product for the Future（徳島文理大）《協賛》（9月1日～4日）
- ・The Fifth International Conference on Cofactors & Active Enzyme Molecule 2016 “ICC05-AEM2016”（富山）《後援》（9月4日～8日）

**(7) その他本会の共催・協賛・後援による国内学術集会**  
**【2015年】(54件)**

- ・第4回分析機器・科学機器遺産認定事業（幕張）《後援》（4月1日～5月21日）
- ・平成27年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業（岩手）《後援》（4月1日～8月31日）
- ・“未来へのバイオ技術”勉強会「神戸発、食のグローバ

ルイノベーション～バイオプロダクション次世代農工連携拠点の成果より」（東京）《協賛》（4月20日）

- ・界面コロイドラーニング—第31回現代コロイド・界面化学基礎講座—（東京、大阪工大）《協賛》（5月14日～15日（東京）、6月18日～19日（大阪工大））
- ・第10回トランスポーター研究会年会（慶應大）《協賛》（6月20日～21日）
- ・文部科学省科研費補助金新学術領域研究（研究領域提案型）「生合成マシナリー：生物活性物質構造多様性創出システムの解明と制御」（平成22年～26年度） 新学術領域研究「生合成マシナリー」成果報告シンポジウム（東京）《後援》（6月21日）
- ・2015年産業技術総合研究所中部センターオープンラボ（産総研中部セ）《協賛》（6月23日～24日）
- ・平成27年度JABEE農学系分野審査講習会（東大）《協賛》（6月27日）
- ・日本包装学会第24回年次大会（東大）《協賛》（7月2日～3日）
- ・セルロース学会第22回年次大会（北大）《協賛》（7月9日～10日）
- ・原子力総合シンポジウム 2015（東京）《共催》（7月16日）
- ・第56回機器分析講習会 第2コース：HPLCとLC/MSの基礎と実践《初級者、中級者ための実務講座》（慶應大）《共催》（7月22日～24日）
- ・第2回FCCAシンポジウム FCCA グライコサイエンス若手フォーラム 2015（お茶の水女子大）《後援》（7月30日）
- ・第34回日本糖質学会年会（東大）《共催》（7月31日～8月2日）
- ・公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム 2015 福島ワークショップ」（福島）《後援》（8月22日）
- ・第28回におい・かおり環境学会（大同大）《協賛》（8月25日～26日）
- ・第13回高付加価値食品開発のためのフォーラム（大阪）《協賛》（9月4日～5日）
- ・第25回イソプレノイド研究会例会（東北大）《協賛》（9月14日）
- ・第24回日本バイオイメージング学会学術集会（東京理科大）《協賛》（9月26日～28日）
- ・第53回粉体に関する討論会（高山）《協賛》（9月28日～30日）
- ・2015年度日本冷凍空調学会年次大会（早稲田大）《協賛》（10月20日～23日）
- ・第48回酸化反応討論会（同志社大）《共催》（10月23日～24日）
- ・第3回コロイド実用技術講座「分散・凝集のすべて」（東京）《協賛》（10月26日～27日）
- ・第51回X線分析討論会（姫路）《協賛》（10月29日～30日）
- ・生物発光化学発光研究会第32回学術講演会（電通大）

《協賛》(10月31日)

- ・大豆のはたらき in 名古屋一食を通して健やかな人生を— (名古屋)《後援》(11月4日)
- ・第60回リグニン討論会 (筑波大)《共催》(11月5日～6日)
- ・第14回食品レオロジー講習会 (東大)《協賛》(11月5日～6日)
- ・第56回機器分析講習会 第3コース「残留農薬をはじめとした有機化合物の質量分析実習」(東京)《協賛》(11月5日～6日)
- ・第108回有機合成シンポジウム (早稲田大)《共催》(11月5日～6日)
- ・第62回界面科学部会秋季セミナー (葉山)《協賛》(11月5日～6日)
- ・日本希土類学会第33回講演会 (東工大)《協賛》(11月6日)
- ・2015年度オレオマテリアル部会 (関東支部) セミナー (東京理科大)《協賛》(11月6日)
- ・第54回NMR討論会 (千葉工大)《協賛》(11月6日～8日)
- ・第9回多糖の未来フォーラム (京府大)《共催》(11月10日)
- ・第56回高圧討論会 (広島)《協賛》(11月10日～12日)
- ・第3回受託分析研究懇談会 (東京)《協賛》(11月12日)
- ・第5回食と生命のサイエンス・フォーラム「栄養とヘルシー・エイジング」(東大)《後援》(11月13日)
- ・第12回日本たまご研究会 (Egg Science Forum 2015) (京女大)《後援》(11月14日)
- ・平成27年度後期 (秋季) 有機合成化学講習会 (東京)《共催》(11月16日～17日)
- ・第32回ニューメンブレンテクノロジーシンポジウム 2015 (東京)《協賛》(11月17日～20日)
- ・アグロ・イノベーション 2015 (東京)《協賛》(11月18日～20日)
- ・第9回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム (上智大)《協賛》(11月18日～20日)
- ・第32回医用高分子研究会講座 (東工大)《協賛》(11月19日)
- ・日本ゾルーゲル学会第13回討論会 (北大)《協賛》(11月19日～20日)
- ・第57回プラスチックフィルム研究会講座 (東工大)《協賛》(11月20日)
- ・第15回基準油脂分析試験法セミナー (東京)《協賛》(11月26日～27日)
- ・コロイド先端技術講座2015「バイオ・アクティブ・ソフトマター」(東京)《協賛》(12月2日)
- ・第42回炭素材料学会年会 (関西大)《協賛》(12月2日～4日)
- ・第42回有機典型元素化学討論会 (名古屋大)《共催》(12月3日～5日)
- ・理研シンポジウム「第16回 分析・解析技術と化学の最先端」(理研)《協賛》(12月4日)
- ・第53回高分子と水に関する討論会 (東工大)《協賛》(12月11日)

- ・内閣府SIP (戦略的イノベーション創造プログラム) 次世代農林水産業創造技術「次世代機能性農林水産物・食品の開発」公開シンポジウム (東京)《後援》(12月16日)
- ・革新的環境技術シンポジウム 2015～今後の低炭素社会の実現を目指して～ (東大)《後援》(12月18日)

**[2016年】(41件)**

- ・第27回高分子ゲル研究討論会 (東大)《協賛》(1月18日～19日)
- ・第21回高専シンポジウム in 香川 (香川)《協賛》(1月23日)
- ・2016年産業技術総合研究所中部センター研究講演会 (愛知)《協賛》(3月1日)
- ・第58回プラスチックフィルム研究会講座 (東工大)《協賛》(3月7日～8日)
- ・第76回熱測定講習会 (早稲田大)《協賛》(3月8日～9日)
- ・高分子と水・分離に関する研究会および2015年度界面動電現象研究会 (東京)《協賛》(3月11日)
- ・第66回医用高分子研究会 (東京)《協賛》(3月14日)
- ・原子力総合シンポジウム 2016 (東京)《共催》(3月16日)
- ・未来を拓く高圧力科学技術セミナーシリーズ (41)「生命科学における高圧力研究の異分野融合」(青山学院大)《協賛》(3月17日)
- ・生命分子機能研究会セミナー2016 (長浜バイオ大)《協賛》(3月18日)
- ・日本鉄鋼協会第171回春季講演大会シンポジウム (東京理科大)《協賛》(3月24日)
- ・“未来へのバイオ技術”勉強会「TPP時代の食の安全・トレーサビリティの確保と世界戦略」(東京)《協賛》(3月24日)
- ・2016年分析機器・科学機器遺産認定 (幕張)《後援》(4月1日～5月20日)
- ・大村智博士講演会～次世代を担う高校生に向けて～ (東大)《後援》(4月16日)
- ・第26回記念万有福岡シンポジウム (九大)《協賛》(4月23日)
- ・食品ハイドロコロイドセミナー2016 (東京海洋大)《協賛》(5月12日)
- ・界面コロイドラーニング (東京, 大阪工大)《協賛》(5月12日～13日 (東京), 6月16日～17日 (大阪工大))
- ・第27回食品ハイドロコロイドシンポジウム (東京海洋大)《協賛》(5月13日)
- ・第3回SBJ シンポジウム (東京農大)《後援》(5月20日)
- ・第18回マリンバイオテクノロジー学会大会 (北大)《協賛》(5月28日～29日)
- ・新規素材探索研究会第15回セミナー (横浜)《共催》(6月3日)
- ・第14回ホスト・ゲスト化学シンポジウム (高知)《協賛》(6月4日～5日)
- ・日本ゾルーゲル学会第13回セミナー (産総研)《協賛》(6月6日)

- ・第109回有機合成シンポジウム（東工大）《共催》(6月8日～9日)
- ・平成28年度前期（春季）有機合成化学講習会（東京）《共催》(6月15日～16日)
- ・日本ケミカルバイオロジー学会第11回年会（第68回日本細胞生物学会大会合同大会）（京都）《後援》(6月15日～17日)
- ・第22回地下水・土壤汚染とその防止対策に関する研究集会（京大）《後援》(6月23日～24日)
- ・第27回万有仙台シンポジウム（仙台）《協賛》(6月25日)
- ・第61回低温生物工学会大会（セミナー及び年会）（東京電機大）《協賛》(6月25日～26日)
- ・新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー：分子標的と活性制御」研究成果報告シンポジウム（慶應大）《協賛》(7月1日)
- ・第28回万有札幌シンポジウム（北大）《協賛》(7月2日)
- ・第53回アイソトープ・放射線研究発表会（東大）《協賛》(7月6日～8日)
- ・第51回天然物化学談話会（新潟）《協賛》(7月6日～8日)
- ・日本グルーゲル学会第14回討論会（早稲田大）《協賛》(8月8日～9日)
- ・第35回日本糖質学会年会（高知）《共催》(9月1日～3日)
- ・第33回シクロデキストリンシンポジウム（高松）《共催》(9月8日～9日)
- ・第58回天然有機化合物討論会（東北大）《共催》(9月14日～16日)
- ・日本応用糖質科学会平成28年度大会（第65回）・応用糖質科学シンポジウム（福山大）《後援》(9月14日～16日)
- ・第46回複素環化学討論会（金沢）《共催》(9月26日～28日)
- ・第52回X線分析討論会（筑波大）《協賛》(10月26日～28日)
- ・第64回レオロジー討論会（大阪大）《協賛》(10月28日～30日)

#### （8）支部主催等による学術集会

##### 北海道支部（2件）

- ・平成27年度第1回支部講演会およびシンポジウム（帯広、8月8日～9日）
- ・平成27年度第2回支部講演会（北大、11月14日）

##### 東北支部（4件）

- ・支部シンポジウム「カロテノイド研究の新しい展開」（岩手大、7月11日）
- ・平成27年度支部「若手の会」（仙台、10月2日）
- ・平成27年度支部大会（東北大、10月3日）
- ・平成27年度市民フォーラム「青森から発信する食品研究」（青森、11月3日）

##### 関東支部（8件）

- ・第1回支部例会 受賞講演・シンポジウム「生活を豊かにする低分子物質の構造と機能」（東大、6月20日）
- ・バイオサイエンス・スクール 2015（日大、8月5日）

- ・2015年度支部大会（お茶の水女子大、9月26日）
  - ・若手発案企画・第14回微生物研究会（明治大、10月31日）
  - ・若手発案企画・第3回天然物化学研究会（東農大、11月20日）
  - ・2015年度企業イベント～企業研究員からのメッセージ～（パート1）（東大、11月28日）
  - ・第2回支部例会 受賞講演・シンポジウム「微生物代謝の制御とデザイン」（東大、12月12日）
  - ・2015年度企業イベント～企業研究員からのメッセージ～（パート2）（日本獣医生命科学大、2016年2月13日）
- 中部支部（3件）
- ・第173回例会 シンポジウム「小胞輸送研究：分子機構から高次機能・応用への展開」（名古屋大、6月20日）
  - ・中部・関西支部合同大会（第174回例会） シンポジウム「酵素活性分子研究の新展開—タンパク質のフォールディング研究と酵素機能の利用—」（富山県立大、9月19日～20日）
  - ・第175回例会 若手シンポジウム「新しい糖質素材と関連酵素」（三重大、11月14日）
- 関西支部（8件）
- ・支部例会（第489回講演会）（京府大、5月23日）
  - ・支部例会（第490回講演会）（阪府大、7月4日）
  - ・中部・関西支部合同大会（第491回講演会）（富山県大、9月19日～20日）
  - ・支部産学官連携シンポジウム（月桂冠（株）、11月12日）
  - ・JSBBA KANSAI Student Forum（京大、11月28日）
  - ・支部例会（第492回講演会）（神戸大、12月5日）
  - ・支部例会（第493回講演会）（京大、2016年2月6日）
  - ・企業-学生交流企画「もっと知ろう贊助企業」（京大、2016年2月6日）
- 中四国支部（9件）
- ・支部創立15周年記念第19回若手研究者シンポジウム「第7回農芸化学の未来開拓セミナー」（岡山大、5月15日～16日）
  - ・支部創立15周年記念第42回講演会（例会）（鳥取大、6月13日）
  - ・支部創立15周年記念第25回市民フォーラム「探すバイオ・知るバイオ・活用するバイオ」（広島、7月25日、8月1日）
  - ・中四国・西日本支部合同大会（第43回講演会）（愛媛大、9月17日～18日）
  - ・支部創立15周年記念第20回若手研究者シンポジウム「若手研究者による農芸化学の将来」（島根大、10月17日）
  - ・支部創立15周年記念第21回若手研究者シンポジウム「身の回りで活躍する微生物」（香川大、10月31日）
  - ・支部創立15周年記念第26回市民フォーラム「「ミドリムシ」は、ものっそすごい」（高松、11月28日）
  - ・支部創立15周年記念第44回講演会（例会）（岡山県大、2016年1月23日）

- ・支部創立15周年記念第27回市民フォーラム「食品と発酵技術」(岡山県大, 2016年1月23日)

西日本支部 (4件)

- ・第310回支部例会 (熊本, 5月29日)
- ・第52回化学関連支部合同九州大会 (第311回支部例会) (北九州, 6月27日~28日)
- ・中四国・西日本支部合同大会 (第312回支部例会) (愛媛大, 9月17日~18日)
- ・第313回支部例会および講演会 (九大, 2016年1月23日)

**(9) JABEE (日本技術者教育認定機構) 対応委員会報告**

- 1) 2015年度には、農学一般関連分野では5件の継続審査(実地審査)があり、審査員1名、オブザーバー3名を派遣した。また、生物工学および生物工学関連分野では1件の継続審査(実地審査)があった。
- 2) 6月27日に「JABEE農学系分野審査講習会」が東京大学で開催された。本会からは1名が参加した。また、JABEE審査員研修会が、7月4~5日(船橋), 7月11日(東京), 8月1~2日(船橋)に開催され、審査員、オブザーバーが参加した。
- 3) (公財)農学会技術者教育推進委員会および農学一般関連分野審査委員会(4月17日, 1月15日, 東京大学)に委員長が参加するとともにJABEEのあり方等について意見を提出し、連携を図った。
- 4) (公財)農学会JABEE一次審査知識項目検討委員会(9月11日, 東京大学)に委員長が参加し、一次審査知識項目の検討を行った。
- 5) (公財)農学会(技術者教育推進委員会)公開シンポジウム「農学教育の未来ビジョン」(10月12日, 東京大学)に委員長が参加した。
- 6) JABEE分野別委員会(生物工学及び生物工学関連分野)(12月24日, 大阪)に委員長が参加し、生物工学関連分野1件の分野別審査を行い、生物工学および生物工学関連分野との連携を図った。
- 7) 日本農芸化学会2015年度岡山大会時(3月29日)に、JABEEランチョンシンポジウム「グローバル人材育成と教育改革」を開催し、84名の参加者があった。

**(10) 関係団体等への委員等の推薦**

- 1) 最高裁判所へ知財専門委員候補者5名を推薦した。
- 2) 大学評価・学位授与機構に機関別認証評価専門委員候補者1名を推薦した。
- 3) 内藤記念科学振興財団に選考委員候補者3名を推薦した。
- 4) 日本農学会に評議員:植田和光会長(京都大学), 三輪清志副会長(味の素), 運営委員:大西康夫庶務担当理事(東京大学)を推薦した。

**2 広報委員会報告**

(1) サイエンスカフェの開催(全12回)

\*1 三省堂書店・日本学術会議農芸化学分科会と共に

\*2 日本学術会議農芸化学分科会と共に

2015年度サイエンスカフェは以下のとおり全12回開催した。

- 1 [第77回] (鳥取)<sup>\*2</sup>「ベニズワイガニを科学する」(3月6日, 鳥取大学地域学部サテライトキャンパス SAKAE401) 講師:小谷幸敏氏, コーディネーター:大城 隆氏, 参加者数20名
- 2 [第78回] (東京)<sup>\*1</sup>「真珠はなぜ輝くのか?」(4月18日, 三省堂書店神保町本店2階UCC カフェコンフォート) 講師:鈴木道生氏, コーディネーター:西川 拓氏, 参加者数20名
- 3 [第79回] (徳島)<sup>\*2</sup>「日本酒, 藍染から生物資源産業まで~徳島のバイオを語ろう」(5月8日, 徳島大学工業会館1階多目的室) 講師:松浦一雄氏, 有内則子氏, 長尾伊太郎氏, コーディネーター:横山拓也氏, 参加者数23名
- 4 [第80回] (福岡)<sup>\*2</sup>「目には見えない働き者~微生物が醸す美味しいお酒の話」(6月5日, BIZCOLI交流ラウンジ) 講師:小林元太氏, コーディネーター:井倉則之氏, 参加者数24名
- 5 [第81回] (福井)<sup>\*2</sup>「そこかしこで働いているタンパク質や酵素を見てみる」(8月22日, LES PLAISIRS café + (レ・プレジユールカフェプラス) 福井駅前本店2F/ カフェ(イートイン)スペース), 講師:伊藤貴文氏, コーディネーター:濱野吉十氏, 参加者数27名
- 6 [第82回] (山形)<sup>\*2</sup>「ヤマガタ食材を科学する」(10月17日, 山形市民会館1階大会議室) 講師:小関敏彦氏, 山岸あづみ氏, 小酒井貴晴氏, コーディネーター:小関卓也氏, 小酒井貴晴氏, 参加者数28名
- 7 [第83回] (秋田)<sup>\*2</sup>「伝統野菜で地域を元気に!」(10月18日, 秋田県立金足農業高等学校) 講師:吉澤結子氏, 吉尾聖子氏, コーディネーター:吉澤結子氏, 参加者数30名
- 8 [第84回] (藤沢)<sup>\*2</sup>「地球を救う植物たち—極限環境の植物科学—」(11月1日, 日本大学生物資源科学部本館(B1)スエヒロ), 講師:長谷川功氏, コーディネーター:熊谷日登美氏, 参加者数16名
- 9 [第85回] (帯広)<sup>\*2</sup>「いろいろな油(脂質)の世界」(12月5日, Farm Designs (帯広畜産大学内)) 講師:木下幹朗氏, コーディネーター:折笠善丈氏, 韓圭鑑氏, 参加者数14名
- 10 [第86回] (京都)<sup>\*2</sup>「旨い!をつくる油の秘密」(12月12日, HACOBU KITCHEN (ハコブキッチン)) 講師:松村成暢氏, コーディネーター:木岡紀幸氏, 井戸端サイエンス工房, 参加者数19名
- 11 [第87回] (大分)<sup>\*2</sup>「大分から世界へ~麹菌と最新バイオテクノロジーのお話~」(2月6日, 三和酒類いちこ日田蒸留所), 講師:後藤正利氏, 丸尾 剛氏, コーディネーター:廣政恭明氏, 参加者数21名

12 [第88回] (京都)<sup>\*2</sup>「石油社会から植物資源社会へ～木からプラスチック、バイオエタノールができる社会～」(2月13日, 平野の家 わざ 永々棟) 講師：渡辺隆司氏, コーディネーター：木岡紀幸氏, 京都カラスマ大学, 参加者数21名

(2) 学校教育における農芸化学の普及活動補助

2015年6月30日および10月31日の2回の締切を設けたところ1件の申請があり, 広報委員会で審議した結果, 1件を普及活動補助として採択した.

1. 「身近な加工食品作りを通して, 食を科学する!」(2016年3月12日, 七窓思恩園) 申請者：永井 育氏(山形大学農学部教授), 補助額200,000円.

また, 今回の申請が本事業の内容に相応しいかという検討がなされ, 今後の申請受付について申請者区分の見直しと活動内容の精査を行うこととした.

(3) 出前授業 (2015年度全10回開催)

1 [第20回] 2015年3月2日 (月) 守口市立八雲中学校「小さな微生物の大きなちからー地球の環境・私たちの健康は微生物によって支えられているー」講師：小川 順氏 (京都大学大学院教授) 聴講者：中学3年生120名

2 [第21回] 2015年8月30日 (日) あいち産業科学技術総合センター「お酢と牛乳でチーズを作ろう!」講師：大石竜氏 (株式会社 Mizkan Holdings 中央研究所) 聴講者：小中学生15名, 保護者9名

3 [第22回] 2015年10月16日 (金) 熊本県立宇土高等学校「微生物が人類と地球を救う!! 食品の開発と環境の保全」講師：松崎弘美氏 (熊本県立大学教授) 聴講者：高校1年生および2年生31名

4 [第23回] 2015年11月7日 (土) サイエンスホッパーズ「うま味ってなに?」講師：西村敏英氏 (日本獣医生命科学大学教授) 聴講者：生徒13名, 保護者7名

5 [第24回] 2015年12月12日 (月) NPO法人ビタミンネットワーク「梅っ子ビタミンフェスタ」講師：二宮くみ子氏 (味の素株式会社, NPO法人うま味インフォメーションセンター) 聴講者：児童247名, 地域市民113名

6 [第25回] 2015年12月21日 (土) 学校法人筑紫女学園中学校「見えないものの力～わたしたちのくらしと健康を支える微生物の話」講師：中山二郎氏 (九州大学大学院准教授) 聴講者：中学1年生16名, 中学2年生18名

7 [第26回] 2016年1月26日, 27日 (火, 水) 大分県立大分豊府高等学校「オワンクラゲの遺伝子を導入して光る微生物を作ろう!～DNA抽出と遺伝子組換え実験～」講師：林 育氏 (別府大学准教授) 聴講者：高校2年生120名

8 [第27回] 2016年2月2日 (土) 半田市立成岩中学

校「発光生物とその科学」講師：大場裕一氏 (名古屋大学大学院助教) 聴講者：中学3年生240名

9 [第28回] 2016年2月25日 (土) 旭川北高等学校「生きるとは, 学ぶとは一生命・食・環境を学ぶ農芸化学の視点からー」講師：松井博和氏 (日本農芸化学会フェロー) 聴講者：高校2年生240名

10 [第29回] 2016年2月27日 (土), 29日 (月) 京都聖母学院中学校「微生物が持つ有用な酵素機能の利用, 麴菌の顕微鏡観察とアミラーゼの抽出・検出」講師：喜多恵子氏 (京都大学教授) 聴講者：中学3年生120名. 現在, 出前授業の進め方について学術活動強化委員会と協力し, より農芸化学の広報活動として適切な在り方を検討している.

(4) ニュースメール配信

メールアドレス登録会員向けニュースメールを2015年度は6回配信した. メールアドレス登録者は2016年3月現在 約7,467名. またメールアドレス登録者に, 広報委員会の決裁を経ずに各委員会の責任においてご案内メールの配信を行うことを可能とした.

(5) 大会記者会見

2015年3月13日に東京 (東大農学部) において報道各社を招き記者会見を開催した. 新聞, 出版関係者10社14名に学会及び2015年度岡山大会の広報資料を配布し, 学会長から学会の紹介を, 大会実行委員長から大会の全体紹介を, さらに広報担当理事がトピックス28演題の紹介, 解説を行なった. そのうち2演題 (掲載4誌) が新聞各紙に掲載された.

(6) 大会トピックス賞の表彰

2015年度岡山大会一般講演発表2,055題から28演題を選定し, 口頭発表終了後, 授賞者を決定し, 受賞者に賞状を郵送した.

(7) 年次大会ホームページにおけるバナー広告

年次大会ホームページに設置した画像をクリックすることにより広告となるバナー広告は2016年3月現在で4社に利用されている.

(8) 学会ホームページにおける企業ロゴマーク表示

学会ホームページに設置したランダムで表示される企業ロゴマークは2016年3月現在で22社に利用されている.

(9) 農芸化学関連 全国大学院研究科・専攻一覧の改訂

学会ホームページ上の農芸化学関連 全国大学院研究科・専攻一覧の改定を行った. 現在, 本ページにおいて短期大学・専門学校・学部の追加を進めている.

(10) 英語版公式パンフレット改訂

英語版公式パンフレットの改訂を行った. 内容を一新し, 見やすく, わかりやすいパンフレットに改善した.

### 3 学術活動強化委員会報告

#### (1) 補助金の交付

##### 「国際学術集会」

外国人等講演会（申請なし）

国際シンポジウム（申請2件、採択2件）

No. 18 「International Symposium on Dietary Antioxidants and Oxidative Stress in Health (DAOSH)」(8月30日～31日、滋賀県立淡路夢舞台国際会議場)《後援》

No. 19 「International Symposium on Microbial Response, Adaptation, and Evolution in the Environment」(10月21日、東京大学弥生講堂一条ホール／アネックス)《共催》

##### 「薮田講演会・薮田セミナー」

薮田講演会（申請なし）

薮田セミナー（申請なし）

#### (2) 農芸化学「化学と生物」シンポジウムの開催

第41回農芸化学「化学と生物」シンポジウム（3月26日、ホテルグランヴィア岡山 参加者約600名）「生き物の仕組みを化学する楽しさ」と題して開催した。

#### (3) 第22回農芸化学Frontiers シンポジウムの開催

第22回農芸化学Frontiers シンポジウム（3月29日～30日、ゆのごう美春閣、参加者92名）は6題の講演が開催され、エクスカーションとして真庭バイオマスタウンを見学した。

#### (4) ジュニア農芸化学会の開催

ジュニア農芸化学会2011（2011年3月26日、京都女子大学）は東日本大震災により口頭発表が中止となったが、大会講演要旨集は発行済かつ特許庁および国会図書館に納本済のため、高等学校32校による57演題の発表が成立した。

ジュニア農芸化学会2012（2012年3月24日、京都女子大学）では、高等学校45校による65題のポスター発表が行われた。

ジュニア農芸化学会2013（2013年3月25日、東北大学）では、高等学校50校による80題のポスター発表が行われた。

ジュニア農芸化学会2014（2014年3月28日、明治大学）では、高等学校54校による54題のポスター発表が行われた。

ジュニア農芸化学会2015（2015年3月27日、岡山大学）では、高等学校50校による50題のポスター発表が行われ、562名の参加者があった。

#### (5) 日本農芸化学会フェローについて

2014年度から募集を開始した日本農芸化学会フェローについて、2015年度は6名の推薦があり、委員会で6名を選考し、フェロー候補者として理事会に諮り承認された。あわせて、フェロー制度規程について、候補者として名誉会員、有功会員が自薦できること、および候補者の在籍歴を正会員として10年以上とするなどの変更が承認された。

#### (6) 重要研究課題の検討について

9月26日から27日、農芸化学会が学術および社会に対して大きく貢献するために、掲げ、発信するべき重要課題を検討すること目的として合宿を行った。委員が6グル

プ（環境、腸内フローラ、食の安全性、機能性食品、医薬農薬、発酵）に分かれ各分野における課題の検討を行った後、プレゼンテーションを行い、それを元にして委員会全体で活発な議論を行った。

#### (7) 総務会の開催

本年度より発足した委員会コアメンバーによる総務会を11月、2月に開催した。合宿での研究課題の検討から立ち上がった「食、腸内細菌、健康」をテーマとするシンポジウムを第1回100周年シリーズシンポジウムとして2016年に開催することが報告された。各種学活委員会活動について広く議論を行った。また、日本学術会議大型マスタープラン2017へ4件応募する方針を決定した。

### 4 和文誌編集委員会報告

委員会において「化学と生物」誌の企画・編集を行い、年12冊を発行した。

委員会は企画・編集にあたって生命科学全般に関する話題を基礎から応用にわたってバランスよく取り上げ、読みやすい誌面をつくるよう努めた。

53巻3号（2015年3月）より「化学と生物」のオンライン版を開始し、会員は冊子体到着より早く、学会ホームページのマイページよりオンラインで公開となった記事を見ることができるようになった。オンライン版ではe-pubやHTMLも搭載し、PCはもとよりタブレット端末でも閲覧可能である。巻頭言、プロダクトイノベーション、テクノロジーイノベーション、農芸化学@ High School、和文誌編集委員長が選出した記事1件は、非会員でも閲覧可能にしている。

冊子体は希望者には、年2,000円で配布し、名誉会員・賛助会員・団体会員・有功会員・シニア会員の希望者には、無料で配布している。また、オンライン版はフルカラー、冊子体は2色刷りとすることで通常号は従来と比較し、印刷費が3割以上、冊子の運搬費も8割近くが削減された。

さらに54巻1号（2016年1月）は「大村智博士 ノーベル生理学・医学賞受賞記念特集」とし、通常の構成ではなく、大村智先生ゆかりの執筆者からの寄稿で構成した。本号のオンライン版は全て非会員でも閲覧可能とし、冊子体発行部数を通常より大幅に増やし、本会員全員、過去のジュニア農芸化学会参加校、学術振興会等に配布した。

### 5 英文誌編集委員会報告

(1) 英国Taylor & Francis社に発行を新たに委託した78巻（2014年）の当初は発行の遅れが顕著であったが、2年目となる79巻（2015年）はBBBの冊子体・オンライン版とともに順調に発行された。また、2014年～2015年は契約により1号あたりの頁数が180頁前後（年間2064～2208頁）であったが、2016年発行分より1号あたりの頁数を220頁前後（年間2472～2640頁）とすることにより、早期公開期間を短縮し、より早い本公開が可能となった。

(2) 2015年1月～12月の投稿数は前年より37編少な

い783編、掲載数は前年より4編多い318編であった。また、掲載論文の総頁数は42頁少ない2170頁であった。これは2014年の総頁数が契約を若干超過したことを踏まえ、2015年は全ての号で1号あたりの制限頁数(184頁)を守ったことによる。

79巻(2015年)の投稿から冊子体掲載までの期間は平均217日(2014年は236日、最短135日)、早期公開までが平均108日(2014年は181日、最短46日)であり、発行までの期間が19日短縮、早期公開までの期間が73日短縮された。審査期間は平均61日(2014年は62日、最短5日)である。なお、製作拠点のインド・チェンナイでの洪水により80巻(2016年)2号の発行は遅延した。

(3) 英文誌78巻からOpen Access論文(論文掲載直後からFree Accessで閲覧可能、且つ著者や出版社に許可なしで図表の引用が可能)の掲載も行っている。79巻では1編(78巻も1編)であった。

(4) 英文誌79巻掲載のRegular Paper232編のうち優れた論文11編を選出し論文賞とした。

(5) 英文誌77巻、78巻掲載のRegular Paper, Communication, Note全747編のうち、2016年1月末までに最も引用回数の多かった論文をMost-Cited Paper Awardとした。

(6) 英文誌77巻、78巻掲載の全25編のうち、2016年1月末までに最も引用回数の多かったReviewをMost-Cited Review Awardとした。

## 6 産学官学術交流委員会報告

### (1) 第13回農芸化学研究企画賞の公募・選考

今回から重点研究領域を従来の4領域から3領域(①先導的生物活性物質研究と新技術開発、②機能性食品素材および食品、③グリーンバイオテクノロジー)へ絞り、公募・審査を行い、下記の3件を受賞テーマとして選考した。選考はこれまで企業に所属する人で構成されていた小委員会において行っていたが、産学官学術交流委員会委員が3グループに分かれて審査を行うように変更した。また、公募にあたっては、広報活動を強化し、会員宛に募集案内のメールを配信した。応募件数は前年度の3倍以上の37件に達した。

重点研究領域① 先導的生物活性物質研究と新技術開発  
(応募19件、採択1件)

受賞者:臼井健郎氏(筑波大学生命環境系・准教授)  
受賞テーマ:非侵襲的薬剤投与法を可能にする上皮タイト

ーション可逆的開口剤の開発

重点研究領域② 機能性食品素材および食品(応募5件、採択1件)

受賞者:仲川清隆氏(東北大学大学院農学研究科・准教授)

受賞テーマ:食後高血糖改善成分を含む新規素材の活用に関する研究

重点研究領域③ グリーンバイオテクノロジー(応募13件、

採択1件)

受賞者:笠井大輔氏(長岡技術科学大学大学院工学研究科・助教)

受賞テーマ:廃棄ゴムの再資源化を目指したゴム処理技術の革新

第13回農芸化学研究企画賞の副賞として、下記19社より29口の御寄附をいただいた。

アサヒグループホールディングス(株)、味の素(株)、天野エンザイム(株)、(株)カネカ、キッコーマン(株)、協和発酵キリン(株)、キリン(株)、月桂冠(株)、サッポロビール(株)、サントリーエルネス(株)、第一三共(株)、日東菓品工業(株)、長谷川香料(株)、(株)林原、不二製油(株)、(株)明治、森永乳業(株)、ヤマサ醤油(株)、ライオン(株)

昨年度の残余分を含めた結果、本年も残余分(140万円)が生じた。残余分は、第14回農芸化学研究企画賞副賞の一部として繰り越すこととした。

(2) 第8, 9, 10回農芸化学研究企画賞受賞者最終報告の和文誌へ掲載推薦

農芸化学研究企画賞の認知度向上と成果の広報を目的として、本会和文誌「化学と生物」へ企画賞受賞者の最終報告掲載を推薦することに関して、第8回企画賞受賞者1件、第9回企画賞受賞者1件、第10回企画賞受賞者3件の計5件を本委員会から和文誌編集委員会へ推薦した。

### (3) 産学官学術交流委員会フォーラム

岡山大学津島キャンパスで開催された日本農芸化学会2015年度大会において、3月28日(土)に、産学官学術交流委員会・産学官若手交流会(さんわか)主催で、産学官学術交流委員会フォーラムを開催した。参加者は約250名で盛況であった。内容は、

第1部 第12回農芸化学研究企画賞受賞者研究企画発表会  
第10回農芸化学研究企画賞受賞者最終報告会

第2部 第11回農芸化学研究企画賞中間報告会

第3部 ポスターディスカッション

農芸化学研究企画賞ポスター発表

大会トピックス演題のポスター発表

(大会実行委員会と共に)

第4部 シンポジウム「世界に挑む!日本発バイオベンチャー!!」

第5部 技術交流会(ミキサーとの共催)

(4) 産学官若手交流会(さんわか)によるセミナー開催  
・10月2日(金) 東京大学

第24回さんわかセミナー「農芸化学からつながる産・学・

官のネットワーク～さんわかメンバーによる講演会～」

参加者約50名

・12月3日(木) 京都大学

第25回さんわかセミナー「産学官でつなぐ糖鎖工学の現状」

参加者約50名

## 7 被災地理科教育支援特別委員会報告

キリングループの協和発酵キリン株式会社と共同し、東日本大震災で被災された岩手・宮城・福島3県の小学校・中学校・高等学校を対象にした理科教育支援事業は、2015年度については甚大な被害に遭ったが、受け入れ体制が整っていないなどの事情によりこれまで支援を届けられない学校を調査し、支援の申し出を行った。次の1校が支援の受入れを希望され、支援校として選定した。【高校】福島県立磐城農業高等学校

## 8 倫理委員会報告

(1) 学会としての社会的責任を果たすため、利益相反状態の開示に関する条項を、日本農芸化学会の行動規範へ付加し、学会ホームページ上へ公開した。

(2) 本会会員の違法行為が報道された件に関し、理事会（第336回2015年5月8日）より処分に関する諮問を受けた。調査委員3名による調査委員会を立ち上げ調査、審議を行い、除名相当とする旨、理事会（第339回2015年10月1日）へ答申した。

## 9 財務委員会報告

財務委員会は次の議題について議論と課題共有を図り、一部は理事会に諮った。

【財政・予算関連】①平成24年度及び平成25年度科研費の額確定報告、②農芸化学会事務所の共益費（固定資産税を含む）支払い、③支部の流動資産の取扱、④2015年度事務局内設備改善（特定資産使用取崩し額とその内容）、⑤和文誌、英文誌、及び大会プログラム集の在庫処分、⑥岡山大会実行委員の参加費（大会・懇親会）関連、⑦支部会計監査実施報告（東北、北海道、西日本）、⑧100周年記念事業具体案、⑨旅費会計処理システム導入、⑩学生会費の減額検討、⑪年次大会及び附設展示会運営委託に関する入札実施、落札、決定、⑫2016年度大会附設展示会委託料関連、⑬支部の資産管理、⑭諸謝金の取扱、⑮支部ホームページの統一化、⑯役員及び委員への日当支払い、⑰会議費支払のルール化、⑱2016年度予算案、⑲展示会運営業者の再度入札、⑳支部引当特定資産の支部事業費充当

【契約関連】①年次大会委託業者との契約関連（5大会分及び一年度大会分の二種）、②監査契約及び各種業務委託契約、③学会事務局建屋管理費（値下げ要求）契約関連弁護士報酬契約、④JSBBAロゴの商標登録、⑤システム運用保守契約、⑥個人情報保護に関する覚書

【規程関連】①新案1件（情報セキュリティ化対応）、②廃案4件（英文誌編集委員報酬規程、マイクロフィッシュ引当特定資産に関する内部規程、国際活動引当特定資産に関する内部規程、奨学金引当特定資産に関する内

部規程）、③変更案2件（諸謝金支給規程、給与規程）  
【和文誌・英文誌関連】①BBB契約変更関連、②BBB Reviewの無料公開化、③寄贈交換リストの変更、④和文誌謝金の図書カードを銀行振込へ変更、⑤英文誌報酬規程を謝金規程内に組み込み、⑥和文誌特集号（2016年1月号）の配本先、⑦会誌の送本実態  
【事務局関連】①事務局職員給与算定に基づく個人目標管理、昇格判定の仕組み作り、②昇給昇格判定実施、③事務局業務の一部外部委託化、④会費請求入金処理のシステム化、⑤会員管理の一部外部委託化

## 10 男女共同参画委員会報告

### (1) 本委員会の発足

2015年度より男女共同参画に関する委員会として、10名の委員で構成された本委員会が発足した。

### (2) 男女共同参画ランチョンシンポジウムの開催

2015年度岡山大会に於いて、男女共同参画ランチョンシンポジウム（3月27日、岡山大学、参加者約100名、後援：男女共同参画学協会連絡会）を「仕事と子育て、ただいま生き生き奮闘中の先輩の話を聴いてみよう」と題して開催した。

### (3) 男女共同参画実態調査報告書の作成・公開

男女共同参画学協会連絡会が2012年11月～12月に行った第三回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査（大規模アンケート）について、本会会員であると自己申告した回答631名分を母集団とし、解析した。解析結果は報告書としてまとめ、本会ホームページに公開した。

### (4) 男女共同参画学協会連絡会関係

#### 1) 運営委員会への出席

第13期第2回運営委員会（4月27日、東京大学）に委員2名が出席した。

第14期第1回運営委員会（12月15日、お茶の水女子大学）に委員1名が出席した。

#### 2) シンポジウムへの参加

第13期シンポジウム（10月17日、千葉大学）に委員1名が参加し、本会の活動報告をポスターにて発表した。また、このシンポジウムの参加報告を本会ホームページにて公開した。

#### 3) 属性調査報告

本会の2015年度の会員における女性比率を調査し、連絡会へ報告した。

#### 4) JST「日中女性科学者シンポジウム 2016 in Japan」への出席候補者の推薦

連絡会からの依頼により、JST「日中女性科学者シンポジウム 2016 in Japan」（4月6日～7日、東京、山梨）について40歳以下の本会所属若手女性研究者3名を推薦した。

## ◀資料1▶

## 会員の状況

(2016年2月末現在)

会員種別	名誉	有功	シニア	一般	教育	学生	国外	団体	賛助 (口数)	小計
前年2月末	17	203	287	6,864	28	2,691	61	280	109 (222)	10,540
北海道支部	0	10	9	256	1	124	0	8	3 ( 3)	411
東北支部	0	10	10	385	7	204	0	22	2 ( 2)	640
関東支部	8	91	166	2,915	18	1,020	0	127	64 (160)	4,409
中部支部	2	14	32	840	7	392	0	36	9 ( 9)	1,332
関西支部	5	46	86	1,285	5	538	0	41	19 ( 36)	2,025
中四国支部	0	11	24	617	6	270	0	25	3 ( 3)	956
西日本支部	0	17	18	468	5	167	0	15	2 ( 2)	692
国外	1	0	0	7	0	2	55	0	0	65
合計	16	199	345	6,773	49	2,717	55	274	102 (215)	10,530
増減	-1	-4	58	-91	21	26	-6	-6	-7 (-7)	-10
入会	0	0	0	289	22	1,043	6	8	0	1,368
復会	0	0	0	7	0	0	0	0	0	7
会員種別変更	0	9	83	559	0	-648	-3	—	—	—
休会	0	0	0	-7	0	0	0	0	0	-7
退会	—	—	-18	-318	-1	-268	-1	-14	-7 (-7)	-627
会費未納による 回り退会	—	—	-2	-114	0	-50	0	0	0	-166
会費滞納による 会員資格停止	—	—	-1	-499	0	-51	-8	0	0	-559
会員資格停止 逝去	-1	-13	-4	-8	0	0	0	—	—	-26
口数変更	—	—	—	—	—	—	—	—	0	—
合計	-1	-4	58	-91	21	26	-6	-6	-7 (-7)	-10

## ◀資料2▶

## 会誌送付の状況

(2016年2月末現在)

	化学と生物 (第54巻、第3号)		Biosci. Biotechnol. Biochem (第80巻、第3号)	
	国内	国外	国内	国外
名譽会員	5	1	10	1
有功会員	67	0	11	0
二ニア会員	212	0	12	0
一般会員	301	0	243	0
教育会員	48	0	1	0
学生会員	173	0	19	1
国外会員	0	10	0	16
賛助会員	102	0	102	0
団体会員	280	0	275	0
寄贈・交換	18	9	6	11
追加送本 <sup>*1</sup>	3	0	4	0
販売壳 <sup>*2</sup>	650	0	0	140
広告用	20	0	0	0
事務局保存用	30	0	13	0
計	1,909	20	696	169
総計	1,929		865	
印刷部数	2,150		940	
残部	221		75	

※1 賛助会員に追加で送本しているもの（有料）

※2 和文誌を刊行している国際文献社、英文誌を刊行している Taylor & Francis 社がそれぞれ販売しているもの  
化学と生物は冊子体送本希望者にのみ配本。

## ◀資料3▶

## 「化学と生物」掲載頁数（下段は編数）

	第49巻 (2011年)	第50巻 (2012年)	第51巻 (2013年)	第52巻 (2014年)	第53巻 (2015年)
解説	359 49	351 46	348 46	323 44	351 48
講座・セミナー室	135 22	147 24	184 25	177 26	137 21
今日の話題	158 71	146 64	171 55	169 62	184 66
研究のスポット・ バイオサイエンススコープ	21 4	17 4	19 4	0 0	55 11
生物コーナー・化学の窓	23 4	21 4	25 5	63 12	19 4
トップランナーに聞く	11 2	10 2	0 0	0 0	11 2
海外だより・学界の動き	17 3	6 1	0 0	13 3	0 0
プロダクトイノベーション・ テクノロジーイノベーション	5 1	11 2	6 1	26 5	62 11
「化学と生物」文書館	75 13	108 17	40 6	0 0	0 0
農芸化学 @High School	38 14	25 11	25 9	28 10	34 12
その他	36	90	30	30	31
印刷頁数（市販）	878	932	848	846	884
会告等	104	104	110	90	0
印刷頁数（会員配布）	982	1036	958	936	884

## ◀資料4▶

## 英文誌投稿状況・掲載状況

月	2015年														2016年			
	前年末	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	1	2	計	
手持数	223	94	57	45	70	67	78	63	46	62	68	74	62	227	63	67	130	
受理数		24	24	22	22	23	25	27	25	23	26	24	24	783	27	28	80	
掲載数		41	43	32	40	36	52	47	36	26	36	41	31	318	30	39	69	
返却数														461				
issue		79-01	79-02	79-03	79-04	79-05	79-06	79-07	79-08	79-09	79-10	79-11	79-12	80-01	80-02	80-03	80-04	

## ◀資料5▶

## 英文誌の掲載の状況

	受理 報文数	掲載 報文数	返却 報文数	年末手持 報文数	印刷 頁数	(内訳)		印刷部数
						投稿論文	索引など	
2011年	941	453	502	242	2490	2424	66	1700 (Vol. 75, No. 12)
2012年	935	441	493	243	2434	2368	66	1700 (Vol. 76, No. 12)
2013年	935	458	487	229	2594	2520	74	1500 (Vol. 77, No. 12)
2014年	820	314	512	223	2212	2134	78	1045 (Vol. 78, No. 12)
2015年	783	318	461	227	2170	2096	74	960 (Vol. 79, No. 12)
増減	-37	4	-51	4	-42	-38	-4	-85

\* 増減は2014年と2015年の比較